

# MACC<sup>マック</sup>通信

Monozukuri Arakawa City Cluster

第27号

2013年12月27日発行

荒川区が進める『MACC(マック)プロジェクト』は、区の特徴である多彩な産業集積や地域資源を活かした、企業間の顔の見えるネットワーク形成を推進することにより、区全体の産業振興(商品開発や販路拡大など)を図るものです。

「MACC通信」では、この『MACCプロジェクト』に関わるホットな情報をお届けします。

今回は「第8回MACCプロジェクトフォーラム」「荒川区・板橋区・北区合同開催首都大学東京健康福祉学部産学交流会」「経営革新のモデル事例 能田電気工業(株)」「分科会活動状況」についてご報告します。

## 第8回MACCプロジェクトフォーラム 企業と専門家のマッチング！ ～企業の課題解決・新事業展開のパートナーとなる専門家を見つけよう！～

MACC(荒川区モノづくりクラスター)プロジェクトの年次大会に相当する『第8回MACCプロジェクトフォーラム』を10月9日(水)サンパール荒川で開催しました。今年度の事業者表彰として、区内の若手経営者らが自主的に活動する「あすめし会(明日の飯の種をつくる会)」に感謝状が贈られた後、「企業と専門家のマッチング!～企業の課題解決・新事業展開のパートナーとなる専門家を見つけよう!～」をテーマに、荒川区に登録する高度特定分野専門家と来場した企業とのパートナーシップの構築が繰り広げられました。



西川区長

「荒川の未来を拓くため、産業クラスターの形成を加速したい」

冒頭、特別区長会会長でもある西川太一郎荒川区長が挨拶し、「景気回復の兆しがみえるなか、MACCプロジェクトが目指す産業クラスター形成が加速することを願っている。これを機に、区内に潜在している企業や人材を再発掘し、専門家を含む幅広い連携体制を構築して、新製品・新サービスの開発機運を巻き起こし、新たなビジネスモデルを創出してほしい。荒川区の明日を拓く産業振興に区も一段と力を入れていく」と述べました。

分科会「あすめし会」に感謝状を贈呈

続いて、MACCプロジェクトの事業者表彰として、「あすめし会(明日の飯の種をつくる会)」に西川太一郎区長から感謝状が贈られました。「あすめし会」は、平成20年にMACCプロジェクトの分科会のひとつとして発足。将来を担う若手経営者・後継者らで構成し、現在の会員は16社。メンバーそれぞれの事業承継対策をはじめ、経営基盤の強化や新規事業の創出に取り組み、平成24年からは分科会から会員企業による自主運営体制に切り替わり、オープンセミナーの毎月開催や中小企業総合展などの展示会への出展を行い、MACCプロジェクトのフロントランナー役を果たしています。

同会の代表幹事を務める(株)日興エポナイト製造所の遠藤智久代表取締役は、「会の活動を通じて、自社の経営革新を図るとともに、他地域・他企業とのネットワークが着々と広がっている。多くの皆さまの応援に感謝申し上げますとともに、これを励みに会の運営をいっそう活発化させたい」と喜びを表しました。



「あすめし会」  
代表幹事の遠藤さん(左)

## ネットワーク構築会～出会い・交流のチャンス～

「企業と専門家のマッチング」は、区が実施している【高度特定分野専門家派遣事業】の登録専門家が分



プロとの意見交流...

野ごとにブースを設け、それぞれのブースを来場した企業経営者らが順次移動して、専門家との出会い・交流のチャンスを広げる形で行われました。

会場では、登録専門家のうち20人余が右表に掲げる8つのブースを設け、それぞれが専門業務の概要、支援・相談内容

などを説明し、経営革新に取り組む区内企業との「顔の見えるネットワーク」づくりが展開されました。



## 「高度特定分野専門家派遣事業」の概要

この事業は、高度な知見やノウハウを持ち、実務に精通している専門家を派遣する事業です。企業が抱える様々な課題の解決にご利用ください(無料)。ご利用に関する詳細は、経営支援課 産業活性化係(03-3802-4683)にお問合せください。

専門分野	専門家	主な支援・相談内容
ビジネス支援 マーケティング 経営革新	中小企業診断士、経営士、 技術経営学修士(MOT)、ア ドバイザー等	海外進出、販路開拓、 新製品開発、組織活 性化等
法務	弁護士 中小企業診断士	企業法務、事業再生、 事業承継、コンプライ アンス等
省エネ (エネルギー管理)	エネルギー管理士 環境経営士	省エネ (エネルギー管理)
税務	公認会計士、税理士	税務会計、相続、法人 税、事業承継、経営戦
IT関連	中小企業診断士 ITコーディネーター	IT戦略 情報セキュリティー
生産管理 生産技術	技術士、中小企業診断士、 技術経営学修士(MOT)等	生産改革 生産システム構築・管 理
デザイン	工業デザイナー、商品開発 ディレクター、デザインコン サルタント等	工業デザイン、製品企 画開発、商品化ディレ クション等
知的財産権	弁理士 技術経営学修士(MOT)	特許管理 知的財産管理等

## 企業経営者の受け止め

「組織活性化には専門的な検証が必要」

「プロの発想とネットワークを構築したい」など当日の参加者は約80人。その中で、事業体制の刷新を模索中という老舗企業のオーナーは「経営環境の変化に照らして、法務、税務の面でもIT戦略や省エネ化の面でも専門的な知見で検証することが、組織活性化には必要」と話し、製品開発や販路開拓に腐心するメーカーの経営者は「事情通、業界通でもあるプロの発想とそのネットワークの力を借りて、モノづくりや市場戦略に新味を出し、成果をあげた」として、新たなパートナーの構築に積極的に対応していました。

## 荒川区・板橋区・北区合同開催 首都大学東京健康福祉学部産学交流会 ～ものづくりの新たな展開 大学と協力して進める 健康・福祉分野の製品開発～

産学連携による健康・福祉分野の製品開発を広域的に推進するため、荒川区・板橋区(公益財団法人板橋区産業振興公社)・北区は12月3日(火)に首都大学東京健康福祉学部の荒川キャンパスで産学交流会を開催しました。テーマは「ものづくりの新たな展開 大学と協力して進める 健康・福祉分野の製品開発」。

当日は、健康福祉ビジネスや産学連携に意欲的な3区内の企業経営者ら60人余が参加し、話題の健康・福祉機器分野の研究活動を聴講して、新たな連携事業の可能性を探りました。

今回の産学交流会は、荒川キャンパスに本拠を置く首都大学東京健康福祉学部及び都立産業技術高等専門学校医療福祉工学コースと3区内の中小企業との新製品開発・新事業創出を加速して、地域のイノベーションを促進するのが狙いです。講演や交流会において、講師と参加企業との質疑応答、意見交換が熱っぽく交わされました。なお開催にあたっては、金融面から産学連携を後押しする荒川区、板橋区、北区の各しんきん協議会から後援いただきました。



「産学交流会」講演の様子

作業療法、理学療法の手法は、  
「最適な治療プログラムを作成する」こと

第1部では、同学部作業療法学科の伊藤祐子准教授が「作業療法士による障がい児の支援及び現場でのニーズ」と題して講演。障がいを持つ幼児の日常生活行動を観察しながら心と身体の発達支援をする作業療法の手法を紹介し、幼児のリハビリに向けた多様な道具や機器の開発状況を説明。「一人ひとりのお子さんにオンリーワンのプログラムで支援する」とアピールしました。



伊藤祐子准教授

次いで、同学部理学療法学科の神尾博代助教が「理学療法関連の研究活動及び健康器具の評価事例」をレポート。運動機能が低下した女性の健康増進を図る『脚の体操用具』の実験計測データを解説し、「女性の筋力増大、歩行改善を目指した理学療法の健康機器として民間企業との共同研究を進める」考えを示しました。



神尾博代助教

都立産業技術高専も産学連携の事例を紹介

第2部では、都立産業技術高等専門学校荒川キャンパス医療福祉工学コースの田宮高信准教授が「産業技術高専における福祉機器の開発事例」として、

フレキシブルシャフトを用いた「密着型歩行補助機」

荒川区の研究補助金を活用した「乳児用バギー（乳母車）の新機能」

脳の老化防止と心身脳の発達に寄与する「囲碁ロボット」

猫背や肩こり解消効果のある「整体まくら」

の4事例を公表。そのうえで、「健康福祉分野はずそ野が広い、機械工学を活用して産学共同で製品づくりを進めたい」と呼びかけました。



産技高専  
田宮高信准教授

区が助成する先進的な製品開発

最後に、同学部放射線学科の小倉泉教授が「荒川区及び島しょ保健所におけるX線装置の日常管理用測定器の開発」について講演。

区の研究補助金を活用して開発中の同測定器は、実証実験を終えて、荒川区や4島しょ（大島・三宅・八丈・小笠原）の保健所に配備される段階にあると話し、今後、「インターネットを利用して、各保健所の医療用X線装置の管理状況が参照できるシステムの実現を目指す」との展開を明らかにしました。



小倉泉教授

【問合せ】経営支援課 産業活性化係

TEL：03-3802-4683

## 経営革新のモデル事例 「能田電気工業(株)」

能田電気工業(株)(荒川区南千住5-25-9)は、経済産業省「元気なモノ作り中小企業300社(平成21年キラリと光るモノ作り小規模企業部門)」にも選定された、創業80年余の社歴を刻む老舗企業です。2代目の能田舜二氏



代表取締役会長  
能田舜二氏

(現会長)が電設工事業の基盤を固め、不況の真っ只中であつた平成21年に長男の能田浩一氏に経営配(代表取締役社長)を引き継ぎ、事業承継を断行しました。



代表取締役社長  
能田浩一氏

同社は、電気設備だけでなく、通信設備・消防設備・建物施設に関する技術領域を融合した総合的なシステム管理が強みで、請け負い業にとどまることなく、独自に製品開発するメーカー機能も備えていることが特徴です。

また、厳しい経営環境を克服するため、さまざまな要望に丁寧に対応して事業機会を広げる戦略に徹し、その成果が出始めているなか、東日本大震災以降は、環境省が推奨する環境経営システム「エコアクション21」を取り入れて、経営革新に拍車をかけています。

新・旧経営トップによるアイデア創出に挑戦

区が実施している「ビジネスプランコンテスト」の一環として行われた【ビジネスプラン作成講座】において、新旧の経営トップが「非常用電源を活用した停電対策」や「次世代照明といわれる有機ELを活用した内装工事などのビジネス」のアイデアを披露しました。同社は「これからもニーズに応える技術を磨いて活路を開いていく」と強い意気込みを持っており、今後の事業展開が注目されています。

# 連載～その9～ 牛山博文の 毛～ひと工夫！



MACCコーディネーター 牛山博文

MACCプロジェクトでは4名のコーディネーターによる、きめ細かい企業支援を行っています。

このコーナーでは、牛山コーディネーターによる生産管理の事例やMACCコーディネーターとしての活動報告等を、わかりやすく連載で皆様にお伝えしていきます。

## “ 中小企業の産学連携活用法(その1) ”

荒川区では、区内企業向けに産学連携支援事業を展開しております。今回は、効果的な産学連携を行う上で重要な企業と大学等研究機関マッチングについて書かせて頂きます。

我々MACCコーディネーターは、正式には「産学連携推進員」として働いています。本来の仕事は、区内企業の技術課題等を大学などの研究機関の協力を得ながら解決することにあります。そのためには、企業のニーズに合った大学・研究機関の先生を紹介しなければならないのですが、先日首都大学東京主催のフォーラムに参加した折、大学側で産学連携のコーディネーターをしている方から、次のようなお話がありました。それは「企業の相談内容は一般的な表現が多く、研究者を紹介するための情報が不足している」ということでした。これはどういうことかという、例えば企業側から「電気モーターに詳しい先生に相談したい」といった内容で相談を受けることが多いが、そうすると大学側は研究者を探す上で困ってしまうそうです。ご存知のように大学等の研究者は専門性が高く、電気モーターといっても専門



分野が非常に細かく分かれているため、大学側は、企業側が電気モーターのどの技術の何が必要なのか判断に迷うことが多いということです。大学側のコーディネーターから我々への要望は、企業ニーズをしっかりと把握して欲しいというものでした。

これは、相談をしたい技術課題などの内容について、もう少し詳しく提示して欲しいということと感じました。現在、我々が産学連携をお手伝いするときには、ヒヤリングを通して「おそらく必要な支援はこういうことだろうな」と解釈して内容をお伝えしていますが、それでもミスマッチや、マッチングできない事例が出てきます。

では、どうするか？実は前述のフォーラムで、効果的なマッチングを実現するためのツールとして使えるマトリックス(表)の提案がありました。講演内容を聞いて「ああなるほど、これなら企業が相談内容を精査して、的確な支援対象を抽出することに使えるな」と思った次第です。

今回は、そのマトリックス(表)がどのようなもので、企業がどのように活用したら良いのかをご紹介します。今しばらくお待ちください。また、早く知りたい方はご遠慮なくお問い合わせください。詳しくご説明いたします。



## 第2あすめし会活動報告 大相談会(10月・11月定例会)

平成25年10月25日(金) 17:00～19:00に産業経済部4階研修室Aで第2あすめし会(ニアス会)10月定例会が行なわれました。

出席者は会員6名、オブザーバー会員1名とトミー

塾長(豊泉シニアコーディネーター)の計8名です。

今回は「ニアス会・トミー塾・何でも経営大相談会パート」と題してサポート役にアドバイザーを配し、会員の悩みに他の会員が答える方式を採りま

した。主な議題は、

技術継承の困難さ、技術不足による商品開発がうまくいかない点や、産学連携・公的研究施設活用の有効性。

通信販売の有効活用。小規模企業が活用する場合の注意点。

在庫管理の有効な方式の導入。5Sの徹底と導入。

各々他会員の悩みに真剣に向き合い、解決策を見出そうと熱い議論がかわされました。



相談会パート 」を行いました。主な議題は、

製品のコストダウン方策。

金融機関との付き合い方。

季節による売上変動の解消法。

運転資金不足のカバー方法。

価格競争力のある仕入れ先の開拓。

設備の老朽化。

設備投資の法則。

前回に引き続き、大相談会は質疑応答が活発になされ、具体的な問題と実践的な本音の解決策に胸襟を開くことができ、会員相互の信頼の熟成にも大いに役立ちました。

平成25年11月21日(木)17:00～19:00に産業経済部4階研修室Aで11月定例会が行われました。

出席者は会員6名、オブザーバー会員1名とトミー塾長(豊泉シニアコーディネーター)の計8名。前回同様、「ニアス会・トミー塾・何でも経営大



## 試験研究機関活用支援事業(平成25年度版)

荒川区では区内中小企業を対象に新製品・新技術の開発に取組む中で、試験研究機関を利用した際の費用の一部を補助します。概要は以下の通りです。皆様の積極的なご活用をお待ちしております。

### 補助対象者

以下の両方を満たす者が対象となります。

中小企業基本法第2条第1項に規定する中小企業者で区内に本社を有する方

申告を完了した直近の事業年度分法人都民税または前年度分個人住民税を滞納していない方

### 対象機関

1. 国又は地方公共団体の法令等により設置された公設試験研究機関

2. 以下に掲げる試験所認定機関により登録認定を受けた国内事業者

(1) 独立行政法人 製品評価技術基盤整備機構認定センター

(2) 公益財団法人 日本適合性認定協会

(3) 日本化学試験所認定機構

(4) 株式会社 電磁環境試験所認定センター

ただし、2の事業者については登録認定を受けた区分のみが対象となります。

### 補助対象経費

以下に掲げる項目へ支出した経費が対象となります。

1. 依頼試験・依頼検査

2. 機器利用

3. 成績証明書及び校正証明書発行

4. 1及び2に付随する技術指導

5. 上記費用に付随する手数料等の間接費用

利用を検討している経費が対象となるかわからない場合はお問い合わせ下さい。

### 補助額

一企業当たり同一年度内5万円を限度に補助対象経費の2分の1の額(ただし1,000円未満切り捨て)を補助します。

対象機関によって手続き方法が異なり、事前申請が必要となる場合もありますのでご注意ください。

詳しくは、下記までお問い合わせください。

問い合わせ先：

荒川区 産業経済部 経営支援課 産業活性化係

T E L : 03-3802-4683

# MACCコーディネーター TOMMYの部屋 VOL.26



## 「荒川後継者育成物語」



MACCシニアコーディネーター 豊泉光男

平成26年の新らしき年を迎え、「今年こそは景気回復を」との巷の声は増々高まっている。

トミーが、平成19年にMACCプロジェクトのシニアコーディネーターに就任して、まず着手したのは、会員企業に「仕事がなければ自分で仕事を創ってみませんか？」ということであり、それが後の新商品開発に繋がった。しかし、その道のりは新事業の熱い思い平坦ではなく、それを確かなものを語るトミー塾長にするためには、実行する人がいないとお手上げであり、“起業家”の存在の必要性が痛いほど解った。

そこで、新商品、新事業開発を実践できる経営者の育成をする事になった。ターゲット人材を誰にするか悩んだが、企業訪問を通じて荒川区内に金剛石の若手後継者が結構存在すること、しかも、まだ原石であって磨かれていないことが解り、その瞬間にターゲットは決まった。かくして平成20年に“あすめし会”は誕生した。“あすめし会”は3年を経て現在、元気いっぱい自主運営を行っている。会員16名が各社において経営者・後継者として活躍し、経営基盤強化・新商品・新事業開発を進め、明日の荒川を担う力をつけておりトミーは、とても遅しく感じている。一方、

1. 新商品・新事業創出にかかせない経営計画の作成

2. 新事業としての海外事業の創出

3. 一部の企業へのあ 工場見学で本音のモノづくりの飯のタネの創出 を語る電光工業(株)河邊社長

4. アントプレナーシップ(起業家精神)の熟成についての支援は、残された課題となった。

また、平成24年度からは新たな若手後継経営者の育成にも着手している。名称を「ニアス会(第2あすめし会)」とし、現在会員は11名である。“ニアス会”では、残された課題と“あすめし会”では出来



なかった事をいくつか始めた。ここで、少し紹介すると、

第1：マネジメント手法や管理技術習得よりもアントレプレナーシップ、困難に立ち向かう精神、経営者としての心構えなどの信念の確立に重点を置いた塾の形式を採用

第2：人生で真に信頼に足る経営者の「心の友」と言えるネットワークの構築(少数でも良い)

第3：「百聞は一見にしかず」を合言葉に企業訪問、工場見学を実施。(会員企業間での工場見学は終了。今後はテーマ別モデル企業への工場見学に取り組む)

第4：企業の成長戦略として「企業価値向上運動」を実践、目に見える成果の創出

第5：会員の経営課題解決、相互信頼、切磋琢磨、知識の定着化を目的とした「大相談会」の定期的開催

第6：会員企業への塾長による定期訪問(経営相談、新商品、新事業開発の支援)

第7：必要に応じた外部専門家・経営者講師を活用した勉強会等の開催

第8：会員のワークライフバランスを重視した、経営計画、人生計画立案の支援

第9：この数年で特に刺激的な会や人との出会いがあった区外の会との交流

その他にもまだまだやり残した事がありそうだ。後継者育成の会もこのように変化、進化していくことが必要であることを強く感じる新春である。今年こそ皆様の願いが達せられることを心よりお祈りいたします。

### < 発行 >

荒川区産業経済部経営支援課産業活性化係  
MACCプロジェクト事務局

〒116-0002 東京都荒川区荒川2-1-5  
セントラル荒川ビル3階

TEL:03-3802-4683 FAX:03-3803-2333

E-mail:macc@city.arakawa.tokyo.jp

URL:http://

sangyo.city.arakawa.tokyo.jp/macc/